

令和2年度南ブロック依存症等調査報告書<概要版>

1 調査概要

- **目的**：依存症支援の実態、ニーズ及び課題を把握し、各保健所及び南ブロック保健所合同で実施する依存症対策事業等に活かす
- **期間**：令和2年10月15日(木)～10月30日(金) ■ **方法**：オンライン及び調査用紙による調査
- **対象**：行政、障がい福祉関係機関、高齢介護関係機関、いきいきネット相談支援センター、訪問看護、精神科医療機関の職員
- **回答者数**：対象者中825人 (※対象機関宛て回答を依頼したため、対象者(職員)総数や有効回答率等は不明)

2 回答者概要

回答者の所属所在地

保健所圏域	回答者の所属所在地	人数 (%)
和泉保健所	和泉市	158 (19.2)
	泉大津市	63 (7.6)
	高石市	32 (3.9)
	忠岡町	35 (4.2)
岸和田保健所	岸和田市	※210 (25.5)
	貝塚市	137 (16.6)
泉佐野保健所	泉佐野市	59 (7.2)
	泉南市	37 (4.5)
	阪南市	42 (5.1)
	熊取町	33 (4.0)
	田尻町	3 (0.4)
	岬町	14 (1.7)
—	無回答	2 (0.2)
	回答総数	825 (100.0)

回答者の所属機関

所属区分	人数 (%)
行政	178 (21.6)
障がい福祉関係機関	153 (18.5)
高齢介護関係機関	240 (29.1)
いきいきネット相談支援センター	36 (4.4)
訪問看護	97 (11.8)
精神科医療機関	80 (9.7)
その他	41 (5.0)
回答総数	825 (100.0)

※岸和田市には岸和田子ども家庭センターの郡部を所管する生活保護担当6人、生活保護担当以外の13人を含む

所属機関別の保健所開催の依存症関連研修の参加状況

所属区分	研修参加あり			研修参加なし		無回答		全体	
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)
行政	57 (29.2)	27 (18.2)	11 (44.0)	178 (21.6)					
障がい福祉関係機関	27 (13.8)	125 (20.7)	1 (4.0)	153 (18.5)					
高齢介護関係機関	42 (21.5)	191 (31.6)	7 (28.0)	240 (29.1)					
いきいきネット相談支援センター	17 (8.7)	15 (2.5)	4 (28.0)	36 (4.4)					
訪問看護	13 (6.7)	83 (13.7)	1 (16.0)	97 (11.8)					
精神科医療機関	32 (16.4)	48 (7.9)	0 (0.0)	80 (9.7)					
その他	7 (3.6)	33 (5.5)	1 (4.0)	41 (5.0)					
回答者総数	195 (100.0)	605 (100.0)	25 (100.0)	825 (100.0)					
研修参加の有無	195 (23.7)	605 (73.3)	25 (3.0)	825 (100.0)					

3 アンケート結果

■ 依存症に関する理解と意識

研修の参加別では、依存症に関する理解と意識について、各項目に○印のあった回答は次表のとおりであった。どの項目についても「研修参加あり」の回答者が適切な理解をしている傾向がみられた（本編表 13）。

依存症に関する意識と理解×研修の参加状況（複数回答）

人（%）

項目	研修参加あり	研修参加なし	全体 (研修参加の無回答含む)
1) 意思や性格の問題	41 (21.0)	219 (36.2)	267 (32.4)
2) 誰でもなりうる	184 (94.4)	548 (90.6)	752 (91.2)
3) 回復できる病気である	128 (65.6)	356 (58.8)	497 (60.2)
4) 依存症になるのは自己管理ができていないから	20 (10.2)	90 (14.8)	113 (13.7)
5) 依存症の背景には生きづらさがある	157 (80.5)	392 (64.8)	566 (68.6)
回答者全体	195 (100.0)	605 (100.0)	825 (100.0)
研修参加の有無	195 (23.7)	605 (73.3)	825 (100.0)

■ 依存症の本人への関わりの状況

依存症の本人へ関わりのあった回答者について、所属機関別に示すと次表のとおりであった。『アルコール』は高齢介護関係機関＞行政＞訪問看護、『薬物』は行政＞精神科医療機関＞高齢介護関係機関、『ギャンブル等』は行政＞高齢介護関係機関＞精神科医療の順で関わりがあった。

所属別各依存症の本人への関わりの状況

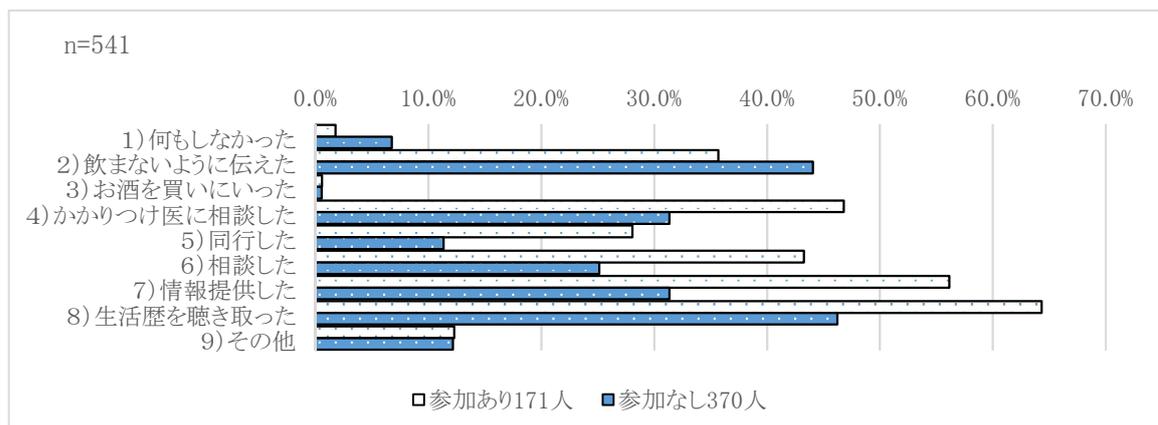
人（%）

機関	アルコール	薬物	ギャンブル等
行政	127 (22.8)	84 (27.5)	74 (29.1)
障がい福祉関係機関	67 (12.0)	36 (11.8)	35 (13.8)
高齢介護関係機関	170 (30.5)	52 (17.0)	47 (18.5)
いきいきネット相談支援センター	23 (4.1)	15 (4.9)	15 (5.9)
訪問介護	72 (12.9)	43 (14.1)	33 (13.0)
精神科医療機関	71 (12.7)	61 (20.0)	38 (15.0)
その他	28 (5.0)	14 (4.6)	12 (4.7)
回答者全体	558 (100.0)	305 (100.0)	254 (100.0)

■ 依存症の本人への支援（対応）の状況

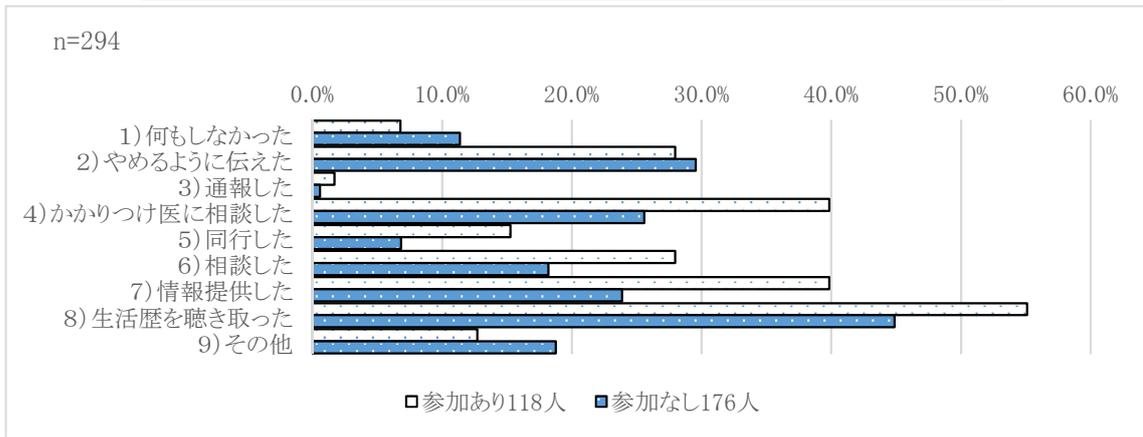
依存症の本人へ関わりのあった回答者（『アルコール』558人、『薬物』305人、『ギャンブル等』254人）について、保健所開催の依存症関連研修の参加別に支援（対応）を比較すると①～③のとおりであった。アルコール、薬物、ギャンブル等依存症のいずれにおいても、「何もしなかった」「やめるように伝えた」のは研修に『参加なし』のほうが『参加あり』より多かった。また、同行、相談、情報提供、生活歴を聞き取る等の支援は『参加あり』のほうが多かった。

① アルコール 558人内訳（研修に『参加あり』171人、『参加なし』370人、無回答17人）



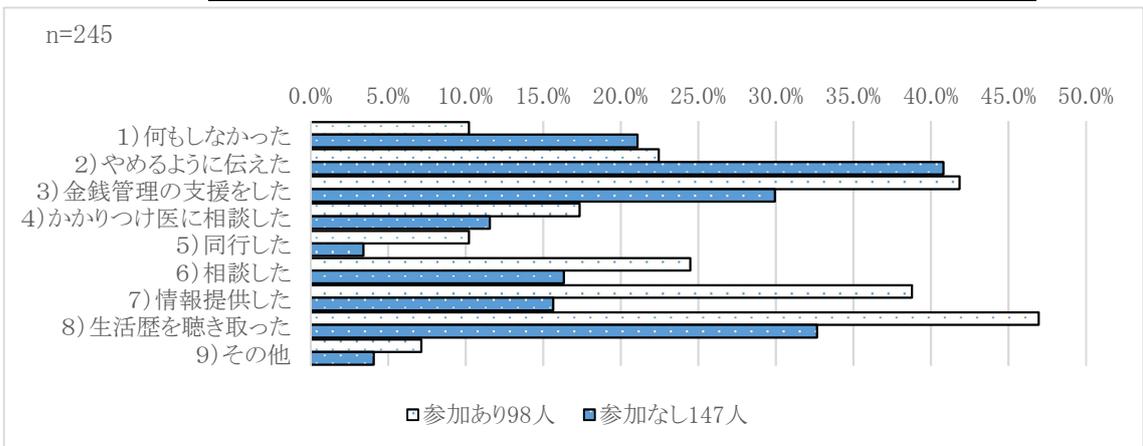
保健所開催の依存症関連研修の参加の有無別アルコール依存症の方への支援（対応）状況（複数回答）

② 薬物 305 人内訳（研修に『参加あり』118 人、『参加なし』176 人、無回答 11 人）



保健所開催の依存症関連研修の参加の有無別薬物依存症の方への支援（対応）状況（複数回答）

③ ギャンブル等 254 人内訳（研修に『参加あり』98 人、『参加なし』147 人、無回答 9 人）



保健所開催の依存症関連研修の参加の有無別ギャンブル等依存症の方への支援（対応）状況（複数回答）

■ 依存症の本人への支援で困っていることや難しく感じること

研修の参加別で比較すると次表のとおりであった。全体では「本人が問題を認めようとなし」「依存症について十分な知識がない」が多かった。研修への『参加あり』は「本人が問題を認めようとなし」「特別な対応技法が必要だと感じる」が多く、『参加なし』は「依存症について十分な知識がない」「本人が問題を認めようとなし」が多かった。

保健所開催の依存症関連研修の参加状況×依存症の本人の支援で困っていることや難しく感じること（複数回答）人（%）

区分	研修参加あり	研修参加なし	全体 (研修参加の無回答含む)
1) 依存症について十分な知識がない	81 (41.5)	327 (54.0)	420 (50.9)
2) 依存症に対応する医療機関や相談機関がわからない	43 (22.1)	165 (27.3)	211 (25.6)
3) 特別な対応技法が必要だと感じる	83 (42.6)	240 (39.7)	333 (40.4)
4) 何を支援したら良いのかわからない	30 (15.4)	175 (28.9)	213 (25.8)
5) 本人が問題を認めようとなし	137 (70.3)	321 (53.1)	470 (57.0)
6) 家族が問題を認めようとなし	66 (33.8)	137 (22.6)	206 (25.0)
7) 困った時に相談できる相手がいない	36 (18.5)	86 (14.2)	124 (15.0)
8) 本人に振り回される	78 (40.0)	204 (33.7)	288 (34.9)
9) わからない	0 (0.0)	26 (4.3)	28 (3.4)
10) 特になし	3 (1.5)	15 (2.5)	18 (2.2)
11) その他	17 (8.7)	28 (4.6)	46 (5.6)
回答者全体	195 (100.0)	605 (100.0)	825 (100.0)
研修参加の有無	195 (23.7)	605 (73.3)	825 (100.0)

■ 依存症について知りたいこと

研修の参加別で比較すると次表のとおりであった。全体では「本人に対する支援の仕方について」「家族に対する支援の仕方について」が多かった。研修への『参加あり』は「本人に対する支援の仕方について」「依存症について相談できる機関やその取組みについて」、研修への『参加なし』は「本人に対する支援の仕方について」「家族に対する支援の仕方について」が多かった。

保健所開催の依存症関連研修の参加状況×依存症について知りたいこと（複数回答）

人（％）

区 分	研修参加あり	研修参加なし	全体全体 (研修参加の有無含む)
1) 依存症という病気について	60 (30.8)	277 (45.8)	345 (41.8)
2) 自助グループや回復施設について	90 (46.2)	238 (39.3)	338 (41.0)
3) 本人に対する支援の仕方について	134 (68.7)	422 (69.8)	572 (69.3)
4) 家族に対する支援の仕方について	113 (57.9)	306 (50.6)	429 (52.0)
5) 回復までのプロセスについて	79 (40.5)	284 (46.9)	374 (45.3)
6) 当事者・経験者の体験談	50 (25.6)	172 (28.4)	227 (27.5)
7) 依存症について相談できる機関やその取組みについて	115 (59.0)	266 (44.0)	389 (47.2)
8) 特になし	11 (5.6)	26 (4.3)	27 (4.5)
9) その他	10 (5.1)	1 (0.2)	11 (1.3)
回答者全体	195 (100.0)	605 (100.0)	825 (100.0)
研修参加の有無	195 (23.7)	605 (73.3)	825 (100.0)

4 今後の地域での依存症対策の取り組み推進に向けて

本調査からは、依存症の本人への支援の状況や課題、研修へのニーズが明らかになった。
このことを踏まえて、今後の依存症対策事業は、以下の方向性で取り組みを推進していきたい。

- (1) **関係機関職員研修の充実**：研修の参加別に支援の課題、関係機関の所属別にニーズを踏まえた研修を実施し、家族支援をテーマとした研修について検討する。また、本人に対する支援の仕方や依存症の正しい知識について、支援者へ普及啓発できるツールの作成を検討する。
- (2) **本人と支援者との交流**：支援者が依存症の回復可能なイメージを持てるよう、本人や家族の体験談を聴く機会を設けるとともに、本人と関係機関とが双方向の交流会を開催する。
- (3) **依存症支援の体制の強化**：本人への支援は、多機関・多職種による連携が必要である。研修や交流会等を通じて、依存症に関わる人材を増やすことにより、サービスやネットワークの強化を図る。

発行元

和泉保健所 地域保健課 精神保健福祉チーム

〒594-0071 和泉市府中町 6-12-3 TEL:0725-41-1330

岸和田保健所 地域保健課 精神保健福祉チーム

〒596-0076 岸和田市野田町 3-13-1 TEL:072-422-6070

泉佐野保健所 地域保健課 精神保健福祉チーム

〒598-0001 泉佐野市上瓦屋 583-1 TEL:072-462-4600

南ブロック依存症等調査報告書の詳細をお知りになりたい方は、こちら ⇒

